

1. 単元名 「私たちの身の回りにおける差別や偏見」

2. 単元の目標

- ・ 全ての人々が人権という権利を持ち、差別やいじめが自分の周りでも起きていることを理解し、人権の概念や必要性を理解することができる。 (知識・技能)
- ・ 自分の経験から人権について振り返り、自ら人権を守るためにすべきことを考え、他者に意見を伝えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・ 他者との違いを理解し、その違いを認め合い互いを尊重しながら協働しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、人権を主軸にいじめや差別といった具体例を教材として取り上げる。近年問題視されているいじめを取り上げることでいじめの抑制に繋がるとともに、いじめがなぜあつてはならないものなのかを特別活動等における道徳教育との連携を図りいじめがテーマとなっている題材を用いて様々な立場で物事を考える時間を設ける。近年本校では外国籍の生徒が増加している傾向にある。その背景を踏まえて、どのように異なる考え、文化、背景を持つ人々と共生していくのかを考え、今後様々な人と協働する中で必要になってくるコミュニケーション能力、異文化を尊重する態度、物事を自分ごと化して考える能力、他者を理解する能力といった能力を育成することが期待される。そして、実際に自分の身の回りの出来事や物事に対してクリティカルシンキングを用いて問題を見付けることで、物事の本質について考え、既存の物事を受け入れるだけでなく、それらを批判的に考える能力も育成することができる。また英語科との連携では、実際にいじめや差別を受けた日本人や外国人にインタビューをするため、外国語でコミュニケーションをとる能力や他者の文化についての理解も図ることができる。

本単元での最終課題として、自分で見つけた課題を解決するためにどのような活動ができるのかを生徒に考えさせるため、物事について調べ、考えるだけでなく、身の回りの世界を変えるために行動することの大切さや自分の行動で人の行動や考えを変えることができるということを学び、社会の一員として意識を持った行動を今後促進することができる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は事前に行った身の回りの物事に関するアンケート（例えば女性専用車両はあるのに男性専用車両はないことなどについて）では、93%の生徒が身の回りの男女差や国によって違う考え方などの違いについて違和感を持つことがなく、あつてはならない違いであってもあまり深く身の回りにおける当たり前の物事について考えたことがないことがわかった。一方で5%の生徒は違和感について気づいてはいるものの、それを解決するためにとるべき行動についてまでは考えられていない状況である。2%の生徒は性別に関する質問のアンケートなどで性別を答えなければならない点について疑問視をしていた。このように身の回りの物事を批判的にとらえる傾向は少ないもの

の、アンケート結果からわかるように本単元で用いる題材についての質問に違和感を持つ生徒もいるため、問題解決のために必要なことを学ぶ姿勢は見られる。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、身の回りの発言や物事が人権に関連していることを暗示するとともに、生徒の出来事や物事における理解を最初に確認をすることで、今後の学習を進める中でどのように生徒の考えが変容したのかをポートフォリオとして残す。他者との意見交換の場を十分に設けることで多様な視点で物事を捉えることができるように指導する。実際にいじめや差別を受けた人（主に外国人）にインタビューをすることで、より具体的に物事を理解し、問題解決のために生徒がすべきことを考えることができるようにする。インタビューの前にインタビューをする相手の国やどのようなことで苦しんだのか情報を生徒に提供し、国に対してのイメージやその人が苦しんだ問題についてのイメージを先に書かせることでインタビュー前後での生徒の気持ちや考えの変化が見て取れるようにする。またインタビューをする際の質問に対してもグループで考えることで他者と協働する力を育成できるようにする。インタビュー後には当事者の話を基になぜその人が問題に直面したのか、どのようにしたらその人たちを助けることができたのか等をグループのメンバーと意見を出し合いながら解決策を考えることでクリティカルシンキングを育成できるようにする。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性…様々な環境で育った人たちがいて、人によって考え方や文化的な閉経が異なり、同じ日本人であったとしても全く同じではないこと。

相互性…人々は関わりあって生活をしているので、自分の言動が他者に影響を与えるとともに他者の言動が自分に影響を与えるということ。

公平性…どのようなバックグラウンドを持っていたとしても一人ひとりが尊重されるべき存在であること。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

批判的に考える力

身の回りの物事を当たり前としてただ受け入れるのではなく、公平・不公平という観点を基に再度物事を新しい視点から考えてあってよい違いなのかならない違いなのかを考える。

進んで参加する態度

いじめや差別、偏見を他者の問題として捉えるのではなく自分事化し、どのようなことが自分にできるのかを考え、行動する。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代内の公正

自分たちだけでなく、異なる考え、文化、背景を持つすべての人々が尊重される社会を作ることが大切である。

人権・文化を尊重する

国籍、性別、性的思考等に関係なく、全ての人が尊重されるべき存在である。

・達成が期待されるSDGs

- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 16 平和と公正をすべての人に

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① いじめ、差別、偏見とは何かについての知識やそれらが起こる原因について理解している。</p> <p>② 授業での学びや調べ学習で得た知識を言葉や図、絵などを用いてそれらの関係性をまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>① 既存の考え方ではなく、新たな視点で物事を捉え、自分の言葉で考えを発表している。</p> <p>② 調べたことやインタビューをもとにいじめや差別をなくすために必要なことについて考え、すべきことを実行している。</p> <p>③ 資料や自分の考えをもとに国ごとや原因ごとの傾向をまとめ、それらの違いについてまとめ、発表している。</p>	<p>① いじめや差別が身の回りに起きていることだと認識をし、その原因や内容について主体的に調べ、意見交換をしようとしている。</p> <p>② インタビューを通していじめや差別を受けた当事者の気持ち等を理解しようとしている。</p> <p>③ いじめや差別をなくすために自分のできることを考え、社会を変えるための行動をしようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全 16 時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価（△） 備考（・）
1	<p>1. 私たちの身の回りに差別的意識、偏見はあるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トランプ大統領の性別に関する発言の動画の視聴 ・職業によってイメージする性別の違いに関するオリジナルストーリーを英語で聞く。 ・ワークシートを用いてこれらの発言や物語についてどのように感じたか率直な意見を書く。 	<p>○トランプ大統領の性別に関する発言の動画視聴の際に特に注目する場面や難しい単語は事前に伝える。</p> <p>○ワークシートを用いてこれらの発言や物語についてどのように感じたか率直な意見を書かせ、他者との意見交換を通して考えの違いに気づかせる。</p>	ア① (知・技)
2	<p>2. 差別に対するイメージについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がアメリカでの留学時に実際に受けた差別についての話を聞く ・国や LGBTQ 別にどんな差別があるか考え、ワークシートに記入をする。 <p>3. 国別、LGBTQ 別など、前時に出したアイデアをまとめる。</p> <p>4. 前時に書いた偏見や差別の意識が生まれた原因について考え、グループで意見交換をする。</p>	<p>○差別に対するイメージが思いつかない生徒にはインターネットや書籍で調べてもよいと伝える。</p> <p>○教師自身の差別の経験を伝える。</p> <p>○国や LGBTQ の人に対するイメージを考えると生徒の理解度に応じて例をあげる。</p> <p>○グループごとにリーダー、書記などを決め、グループ活動を円滑に行えるように支援する。</p> <p>○自分の考えを先に記入し、その後調べ学習をすることで考えを深められるように呼び掛ける。</p>	ア① (知・技) ウ① (主体的) ア② (知・技) イ③ (思判表) イ① (思判表) ウ① (主体的)
3	<p>5. 実際にいじめや差別を受けた人（新潟県 いじめ対策ポータル、特定非営利団体 MixRainbow、教師の友人）にインタビューを次の時間にするので、その人の国やいじめられた内容からなぜ彼らがいじめ、または差別を受けたのか考える。</p> <p>6. いじめや差別の原因となることをインターネットなどで調べ、グループでまとめる。</p>	<p>○インタビューをする人の情報を少し生徒に伝え、彼らがいじめを受けた原因について考えさせるための発問をする。</p> <p>○それぞれの生徒に役割を与えることでグループの一員として活動していることを意識させる。</p>	イ③ (思判表) ウ① (主体的) ア② (知・技) イ① (思判表)

	<p>7. いじめや差別を受けた人に聞きたいことを考え、まとめるとともに現時点でのいじめや差別に対するイメージを書き、グループで意見交換をする。</p>	<p>○調べ学習がうまくいかない場合には他のグループで同じ役割を担う人で協力することを促す。</p> <p>○個人で意見や調べ物をする時間とグループで意見交換をする時間とを目的に応じて効果的に分けることで自分と向き合う時間と他者の意見を踏まえて再度考えを深める時間に分ける。</p>	<p>ア① (知・技)</p>
4	<p>8. 9. LGBTQ でいじめを受けた人と出身国により差別を受けた人の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国によって差別されるなんてどうしたらよいのだろう ・ 性的思考をカミングアウトするには勇気が必要だな <p>10. 11. 当事者の話を聞いて、いじめや差別が起きた原因を自分なりに考え、お話から学んだことや概要、考えたことを書く。</p>	<p>○最初に生徒が考えた質問をいくつか聞くことでインタビューの導入とする。</p> <p>○お話を聞く中でメモを取るよう呼び掛ける。</p> <p>○質疑応答の時間に質問できなかったことを聞き、お話を聞いた上での質問をするように促す。</p> <p>○当事者の話を聞いた後に聞く前と同様のワークシートに自分の気持ちや人権、いじめ、差別に対する考えを記入させることで考えの変化を可視化させる。</p>	<p>ウ② (主体的)</p> <p>ア① (知・技)</p> <p>ウ② (主体的)</p>
5	<p>12. グループで前時にまとめた内容を発表し、今後の課題について考える。</p> <p>13. 14. それぞれのグループで解決したい問題を決め、自分たちに何ができるのかを考える。</p>	<p>○グループでの発表後に今まで学んだ中でどのような問題や事柄を解決したいか考えさせる。</p> <p>○教師が問題を決めて生徒に考えさせるのではなく、生徒が取り組みたいことをやらせるためにサポートに回る。</p> <p>○考えがうまくまとまらない場合には参考になる資料を提示する。</p>	<p>イ② (思判表)</p> <p>ウ③ (主体的)</p> <p>イ② (思判表)</p> <p>ウ③</p>
6	<p>15. 16. それぞれが立てた課題を解決するための発信方法を考え、実施する。</p>	<p>○必要に応じて時間を増やす。</p> <p>○現実的な発信方法と非現実的なものを見極めて、可能な限り生徒のやりたい発信方法を実現できるようにサポートする。</p> <p>○グループの全てのメンバーが役割を担うように呼び掛け、適宜指導する。</p>	<p>イ② (思判表)</p> <p>ウ③ (主体的)</p>